

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズサポートてんとうむし		
○保護者評価実施期間	2024年 8月 1日		～ 2024年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2024年 8月 1日		～ 2024年 8月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童発達支援管理責任者・保育士・児童指導員・看護師・療育士が、それぞれの役割を果たしながら、他職種の役割を互いが理解して、チーム連携が図れていること。	・毎月、常勤会議のほか、全スタッフの会議、職種ごとの会議を開催して、情報の共有化や意見交換を行っている。 ・日々の活動の体制をその日ごとに確認し、利用者の担当に職種による偏りがないように配置工夫をしている。 ・会議の中でケースに対する支援状況の確認と今後の対応について、具体的に提示し、共有化を図っている。	・個別支援において、支援のスキルを向上させるための研修やミニ学習会を充実させる。 ・職員個々の自己研鑽力を高め、スキルアップを図っていく。 ・チームワークについての研修を継続的に開催していく。
2	・支援内容のバリエーションが豊富で、様々な体験、経験の機会を作り出していること。	・保育士や児童指導員が具体的な活動プログラム計画をたて、会議等で実施に必要な情報共有や意見交換を行っている。	・個別支援のノウハウについて、研修や必要な職種からの指導、アドバイスを受ける機会をさらに増やし、利用者がより良い形で体験、経験ができる環境を整えていく。
3	・職員が日頃から関係性がよく、全員が子どもが大好きだということ。	・活動中やそれ以外の場面でも、子どもたちの頑張っていることや強みなどについて、職員間で話す機会が多い。 ・日頃から職員間での意思疎通を深めたり、年間を通しての親睦会開催などを通し、風通しの良い人間関係を築けるようにしている。	・今後も、子どもたちのいいところや頑張っていることに注目して、職員同士の情報共有を図っていく。 ・チームワークについての研修等も重ねながら、より良い人間関係を築くためのノウハウを職員一人一人が意識し考えていくよう、取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者の方と情報共有や伝達事項を周知できる機会が少ないこと。	・日ごろ、保護者の方と対面でお話できる機会が、送迎時のみになってしまうことや年間を通して個別面談や保護者会の頻度も限られてしまうこと。電話での対応も行っているが、十分な理解が得られていないこともあると感じる。	・伝え方、伝えるツールの工夫などを検討していく。
2	・活動スペースが指定基準は満たしているものの、利用者の成長に伴い、手狭になってきた。	開所当初からの建物で、利用者の状況に応じて調整することが難しい。	・スペースの課題については、法人としても取り組んでいきたい。
3	・地域住民等との交流の機会に乏しい。	・散歩以外の場面で、地域の方に会う機会がないことや、地域の高齢化も要因の一つと考える。	・近隣の中学校からのボランティア活動を通しての交流は継続していく。また、季節行事等で地域の方にも参加していただけるような企画を考えていく。